

南花台コノミヤテラスの開設

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

MARCH 2016
VOL. 188



みんなの拠点・コノミヤテラス

2014年9月より、大阪府河内長野市南花台では、「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業（愛称：咲く南花台わくわくプロジェクト）の取り組みが開始され、公民学連携の体制で取り組んでいる。7つのワーキンググループ（以下WG）を設定し、それぞれ専門分野を活かしWG同士の連携もしながら活動を進めている。

地域住民との意見交換を踏まえ、2015年10月3日に、南花台地域の中心に立地するコノミヤ南花台店の2階に、「コノミヤテラス」を開設した。現在は、関西大学の学生を中心に、常駐して運営を行い、地域住民が主体的に運営していく仕組みを模索している。コノミヤテラスが各WGの取り組みの実践の拠点となり、活動は広がりを見せつつある。

1. プロジェクトの経緯

2014年9月から、河内長野市の南花台地域では、大阪府、河内長野市、株式会社タニタ、高野山大学、UR都市再生機構、南海電気鉄道株式会社、株式会社コノミヤ、地元医師会・歯科医師会・薬剤師会、地域事業者、地元自治協議会他関係者との協働で、「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業、愛称「咲っく南花台」の取り組みが開始された。詳しくは団地再編リーフレットVOL.186を参照されたい。

2. 「みんなの拠点」づくりの方針

「気軽に訪れ、自由に交流や活動ができるみんなの拠点づくり」をテーマとし、地域の潜在的な課題を見出すために、地域の人同士による意見交換や交流、新たな活動を誘発することができ、自由に訪れることができるコミュニティ拠点づくりを目指した。みんなの拠点は、南花台地域の中心地区にあるスーパー・コノミヤ内の空き店舗（2階。約175m²）を活用した。拠点の整備はI期、II期に分け段階的に整備をおこなった。

3. 整備・改修の方針

3-1. 「みんなの拠点」内部の改修計画

みんなの拠点の平面計画については、屋外廊下と拠点内部を一体的な空間になることをコンセプトに、

- ①廊下側壁面の一部を解体し、連続して大きく開口をとる
- ②廊下から内部への視線を遮る内壁は撤去する

以上の2点を大きな方針として改修計画を進めた（図1）。

3-2. 廊下側壁面の改修計画

みんなの拠点北側の外廊下側の壁面の改修については、拠点内部の様子が廊下からよく見えて、誰でも入りやすい佇まいになるよう、

- ①廊下側壁面を一部解体する。
- ②解体部分に全開口できる。引き違い戸を設ける。

③外壁の計画によって、外廊下が日常的に利用される風景をつくる

④まちや団地住棟から見える、賑わいあるコノミヤの風景の創出

以上の4点をキーワードに改修を進めた（図1）。

4. 住民からの意見収獲

みんなの拠点の整備をおこなうにあたり、拠点の設計内容や運営につ

いて、住民とのワークショップの中で議論した。住民からの意見・要望について、以下にとりまとめた（図2）。

①情報発信としての拠点

情報収集と発信・掲示板がほしい・回覧が板確実・PCで見れる・メッセージボードなど・・・

②誰もがフラッと立ち寄れる拠点

仲間づくり・趣味の場・教室ごと、カフェ・こどもなど・・・

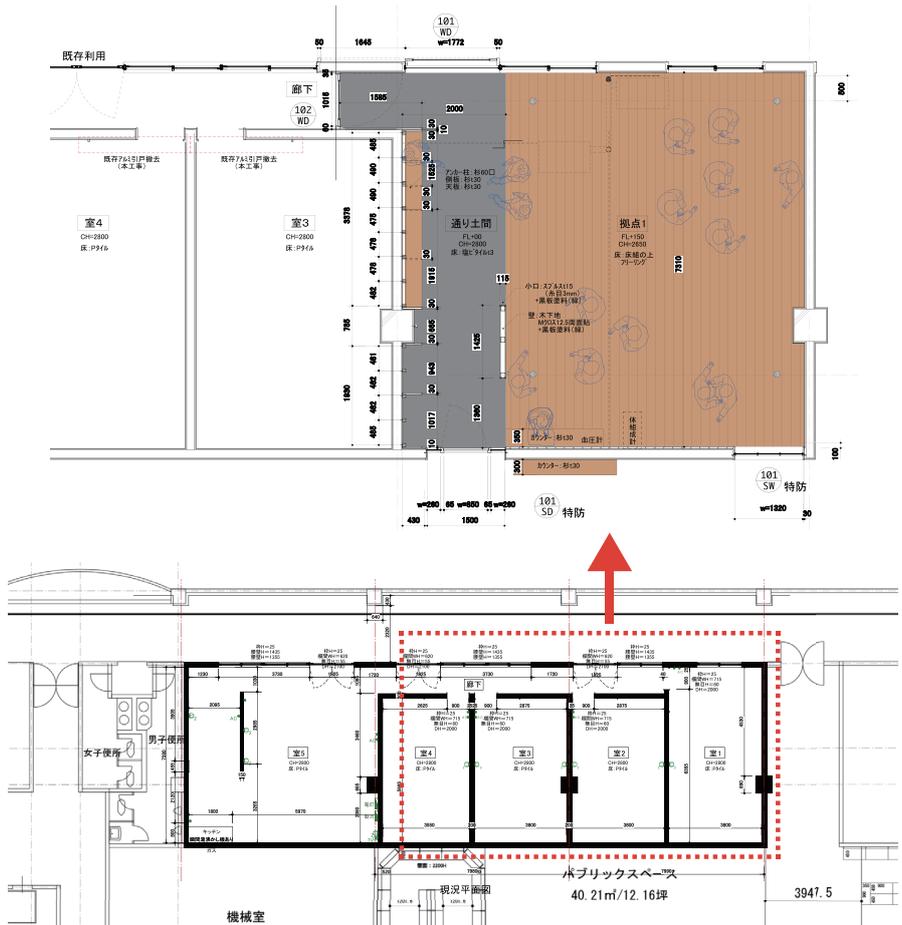


図1. 平面図（上：改修後、下：改修前）

みんなの拠点 活用イメージ



図2. ワークショップから出た活用イメージ

③さまざまな出来事を許容できる空間
会議・趣味の場・BAR(呑みニケーション)・多世代交流など・・・

5. 「塗ってみよう会」の実施

住民とのワークショップの中で議論すると同時進行で「塗ってみよう会」を実施した。南花台の中心に立地し、地域の人々の利用が多いコノミヤの屋外の手すりなどには、経年劣化に伴う塗装の剥がれや錆が多く見られ、このような「剥がれ」や「錆」は、見た目を損なうだけでなく、見る人の気持ちも萎えさせてしまう。塗ってみよう会は、咲く南花台に関わるメンバーを中心に、地域住民も含めて剥がれや錆をDIYで塗装するという取り組みである。同時進行させることで、変化する予感・期待感を持ってもらうと同時に、地域に学生が入り込むキッカケづくりとしての狙いもある。鮮やかに蘇った手すりに対し、地域からは高い評価を受けている。

6. 外部階段の改修計画（塗装）

コノミヤ南花台店の外部階段は、

落書きの跡・補修の跡やクラック(ひび)が入っていたり、日照の関係も相まって暗い雰囲気になってしまっている。誘い込まれる感じは薄く、道行く人も使用頻度は少ない。そこで、階段の壁面、手摺部分を塗装することで空間の印象を変化させることとした。

今回の塗装企画では、

- ①現在のイメージを一新し、ユニークで明るい雰囲気の階段をつくり出すこと【にぎわい感の演出】
- ②2階への新しい人の流れをつくり出すこと【人の誘い込み】
- ③コノミヤ南花台店までのアプローチ空間がまちにとって明るく楽しいものにする【まちなみへの貢献】

7. 「コノミヤテラス」のオープン

みんなの拠点は、地域の核施設であるコノミヤに敬意を表しつつ、地域の誰でもわかりやすい名称として「コノミヤテラス」と名付けた。2015年10月3日(土)に1期工事部分がオープンし、「コノミヤテラスを使ってみよう月間」として住民集

会をはじめ、ちょっとした話し合いや、誰でも参加できるような教室事など、様々な活動が行われている。いくつかのWGの取り組みの実践の拠点としても機能し、取り組みに広がりが見られ始めている(図4、5)。

8. オープン（第一期部分）後のコノミヤテラスでの取り組みと日常の様子

8-1. 咲く南花台健康クラブ

2015年10月からは、「咲く南花台健康クラブ」として、株式会社タニタの健康プログラムを取り入れつつ、スポーツリハビリ専門の島田病院による連続講座にも参加できるモニター制度を開始した。「多世代が魅力を感じる健康づくりを通じた健康コミュニティづくり」をテーマとしている。地域住民から約80名が参加し、半年間の健康クラブの活動に取り組んでいる。また、健康クラブをサポートするサポーターや、専門知識を持つスタッフを地域から募集し、健康仲間としてコミュニティ作りに力を入れている。10月4日からはコノミヤテラスにタニタの体組成計を導入し、毎日健康モニターの住民がコノミヤテラスに利用し、モニター同士での会話も生まれており、セミナー中に意気投合し、帰り



図3. 外部階段の塗装



図4. 改修後の写真（内部）



図5. コノミヤテラスの日常の様子

一緒にウォーキングをすることといった健康仲間が生まれ始めている。さらに健康スタッフサポーターの方はコノミヤテラスの運営に積極的に関わっており、今後の運営主体のメンバーとなりうる人材発掘にもつながっている。

8-2. ラジオ体操

毎朝 10 時オープンと同時にラジオ体操を行っている。はじめた頃は参加者はほとんどいなかったが、現在は数人の常連が生まれている。

8-3. 日常の利用状況 (毎日 10:00 ~ 18:00 オープン)

10 月 3 日の第一期部分オープンから毎日、常駐者で「コノミヤテラス日誌」をつけ、日々の出来事の記録と住民のニーズの拾い上げを行っている。日々の訪問者数は平均 30 ~ 40 人である。

主な利用者は、

- 健康クラブ参加者—健康クラブ参加者は体組成計の利用と世間話⇒交流のキッカケ
- 小学生—放課後宿題をするために利用、宿題が終われば、様々な遊びをする (お絵描きやトランプなど)。⇒子ども達は地域に自由な遊び場が無い。
- コノミヤ店舗側に開けた窓からのぞく方が多数⇒関心はあるが入りづらい。
- 立ち寄られる方ほとんどが買い物もしている⇒コノミヤが生活のひとつの基盤になっている。
- 子ども連れで来るママさんは、買い物でたら子ども達がみんなが集まれる場所があって嬉しいと話している。

それ以外では、地域でサロンや健康体操といった様々な取り組みを行っている団体の活動や会議などが行われたり、コノミヤテラスの今後の使われ方についての意見やアイデアをお話しにくる方も多く、地域の方の関心の高さがうかがえる。

1ヶ月オープンして見えてきた地域のニーズとしては、「まだ入りづらい/キッチンがほしい/絵を飾るスペースがほしい/子育てに関するイベントをしたい/もっと地域に発信したい/独居老人が来れるキッカケづくり/個室がほしい/若い人が集まれる企画がほしい/手芸教室がしたい/料理教室がしたい/健康に関する講座を開きたい/子ども達に勉強を教えてほしい/囲碁将棋教室がしたい/木工が行える場所があれば」などの意見があった。

また、会議等を行っているが入りづらいという意見が多く、「誰でも気軽に入れる」というコンセプトとは異なる状況が生まれている。現在の

ワンルームの状態では行いづらい活動が多々ある事や、個室のような閉じられた空間が必要だということがわかってきた。

その一方で、運営主体や利用ルールについては未確定な部分もあるので (現在は大学生中心の運営だが、将来的には地域住民主体の運営に移行していく)、今後は段階的な整備を行い、検証しながら進めていくことが重要であると考えている。

9. 第二期以降の進め方

段階的な整備、部屋ごとに徐々にオープンする。できあがった場所や部屋を使うのではなく、自分たちが考えた結果が計画に影響して「場所が出来上がっていく過程」を共有する事で、愛着のもてるコノミヤテラスを目指していく。第一期部分をオープンしてみて「個室として閉じられた場所が必要」である事もわかった。それを計画に反映させ、部屋毎に徐々にオープンしていく事を提案しようと考えている (図 6)。

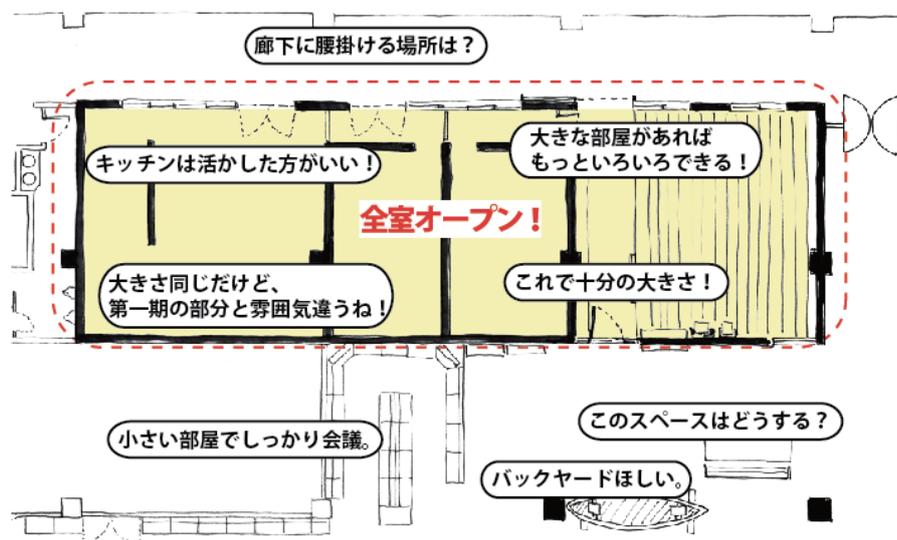


図 6. 第二期以降の進め方イメージ

関連リーフレット : 186 187

『南花台コノミヤテラスの開設』

執筆 : 関谷 大志朗 (関西大学佐治スタジオ研究員)
宮崎 篤徳 (関西大学 先端科学技術推進機構)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅「団地」の再編 (再生・更新) 手法に関する技術開発研究 (平成 23 年度 ~ 平成 27 年度)」によって作成された。

発行 : 2016 年 3 月

関西大学
先端科学技術推進機構 地域再生センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3 丁目 3 番 35 号
先端科学技術推進機構 4F 団地再編プロジェクト室
Tel : 06-6368-1111 (内線 : 6720)
URL : <http://ksdp.jimdo.com/>